

NPO 木の建築フォーラム  
古民家再生塾 第9期

古民家と家づくり・町づくりをめぐる拡大輪講

■ 主旨

9年目を迎えた古民家再生塾では、古民家をめぐる科学や、国内外の古民家事情など、実務的な話題だけでなく幅広い視点から家づくり・町づくりと古民家の接点を探ります。

第1回 8月8日(土) 14:00~16:30

「イギリスの古民家事情」

堀江 亨氏(日本大学准教授)

ゲスト: モリス・マーティン氏(千葉大学教授)、降幡廣信氏(建築家)

会場: 工学院大学(東京都新宿区西新宿 1-24-2)

日本に比べて欧米の木造住宅は平均的な寿命が長く、良質の古民家が大切に存続されていると言われます。イギリスは、日本や他の欧州の国々に比べて民家園などの形で古民家を公開している件数が少ないため、伝統的な民家の概要を身近に触れにくいのが現状です。1990年代以降、日本各地の古民家を調べ回った講師が、2007年~2008年にかけて英国ヨーク大学を拠点として英国各地の古民家を踏査した結果を開示します。日英の古民家の違いについて解説するとともに、非公開民家を含め、建物の維持・存続の実態を報告します。英国ご出身で建築史がご専門のモリス先生と、降幡塾長をゲストに招き、多角的に討論します。

第2回 9月12日(土) 14:00~16:30

古民家をめぐる科学 その1

「放射性炭素による建物の年代測定」

中尾七重氏(武蔵大学総合研究所)

会場: 工学院大学(東京都新宿区西新宿 1-24-2)

ひとくちに数百年前と言われることの多い古民家ですが、古民家の年代判定に関しては日本では長い間、様式編年と呼ばれる建築的特徴から比較し類推する方法が主流でした。これに加えて、部材を科学分析し、これまでの研究成果と相互検証することで、より信頼できる年代判定の手法が注目されてきています。年輪年代法は社寺などの古建築において既に多くの成果をあげていますが、民家や中世地方建造物には放射性炭素年代測定法が適しています。部材の放射性炭素濃度を測定し、用材伐採年を割り出し、建物の建築年代や改造年代を判定する放射性炭素年代測定について解説し、年代研究の最先端事情とその有効性について述べます。

第3回 10月17日(土) 14:00~16:30

「企業による古民家再生」

田島滋氏、足立亮二氏(住友林業ホームテック)

会場: 和敬塾(東京都文京区目白台 1-21-2)

1970年代後半頃を皮切りに一部の建築家によって提唱された民家の再生という設計行為は、伝統建築の魅力の再発見と再構成という面から建築家はその個性を発揮する場であったと考えられます。近年になって、企業が木造住宅のリフォーム事業の一環として組織的に古民家の再生に取り組むようになってきました。「旧家のリフォーム」と称してこの10年ほど全国的な規模で民家の再生に取り組んできた企業の識者が、豊富な実例を紹介しながら、その技術、デザイン、マーケティング等の考え方を述べます。地域色豊かな木造住宅を社会資産として継承する角度から討論する機会にしたいと思います。

第4回 11月28日(土) 14:00~16:30

「古民家の構造補強の実践的処置」

渡辺 隆氏(風基建設 代表)

会場: 工学院大学(東京都新宿区西新宿 1-24-2)

既存の木造住宅にどのような補強方法があるのか、そして改修技術の程度、費用、効果の関係がどうなっているのかということは、実務者に広く知られていないのが実情です。まして伝統的な構法に即した補強方法は、いまだに一般論としては確立していないと考えられます。こうした背景を踏まえて、実務に明るく古民家の修復を数多く手がけてきた講師より、事例に基づく構造補強のノウハウを紹介します。民家の実測・修復に関する多年の経験や、民家型構法の家づくりに取り組んだ経緯などから、古民家がどういう残り方をするのかという視点から議論を展開します。

- 定員 各回40名(先着順。定員になり次第締切)
- 受講費(各回申込み可・1回当たり) フォラム会員 5,000円(非会員 6,000円)
- 申込先/お問い合わせ 古民家再生塾幹事・堀江 亨  
E-mail: horie@brs.nihon-u.ac.jp Fax. 0466-84-3670
- 申込み締切: 各回開催日の5日前(振込み共(必着))